「対話すること」について
20250208

対話と会話は同じか？違うのでは？

対話はソクラテスやアドラーのような価値観に触れる話

ラインのようなものは会話

何が会話でないか⇒論破する→ディベート→弁論部のような

ディベートには勝ち負けが付きもの

アイスブレーク→会話→対話

互いの合意がないと対話にならない

相手の話を聞く姿勢→姿勢の合意

親と子⇒従属関係→対等（個と個）

災害の被災者→避難所でのたわいない会話に救われる

違うことが体験できる

人と心を通わせることができる

公平に接していること

心が通じている、気持ちを共有していること

魂を通わせる

ともに解決しようとすることがあるとき

会話と対話を分ける必要はない

対話には自分があることが必要

話している（聴いてもらっている）うちに自分で問題が整理し、気付く

傾聴⇒聴くこと、心のこえを→対話

聴く方はよく耳を傾けて反応をする

話す目的→心を通じること

発見がある

話を聴いて欲しい

論破⇒自分が正しい→技術的ディベート

相手はどう思う↔自分はどう思う

相手がその能力（聴く）を備えているか（準備）

マウンティングしてくることもある

自分の生き方にかかわってくる

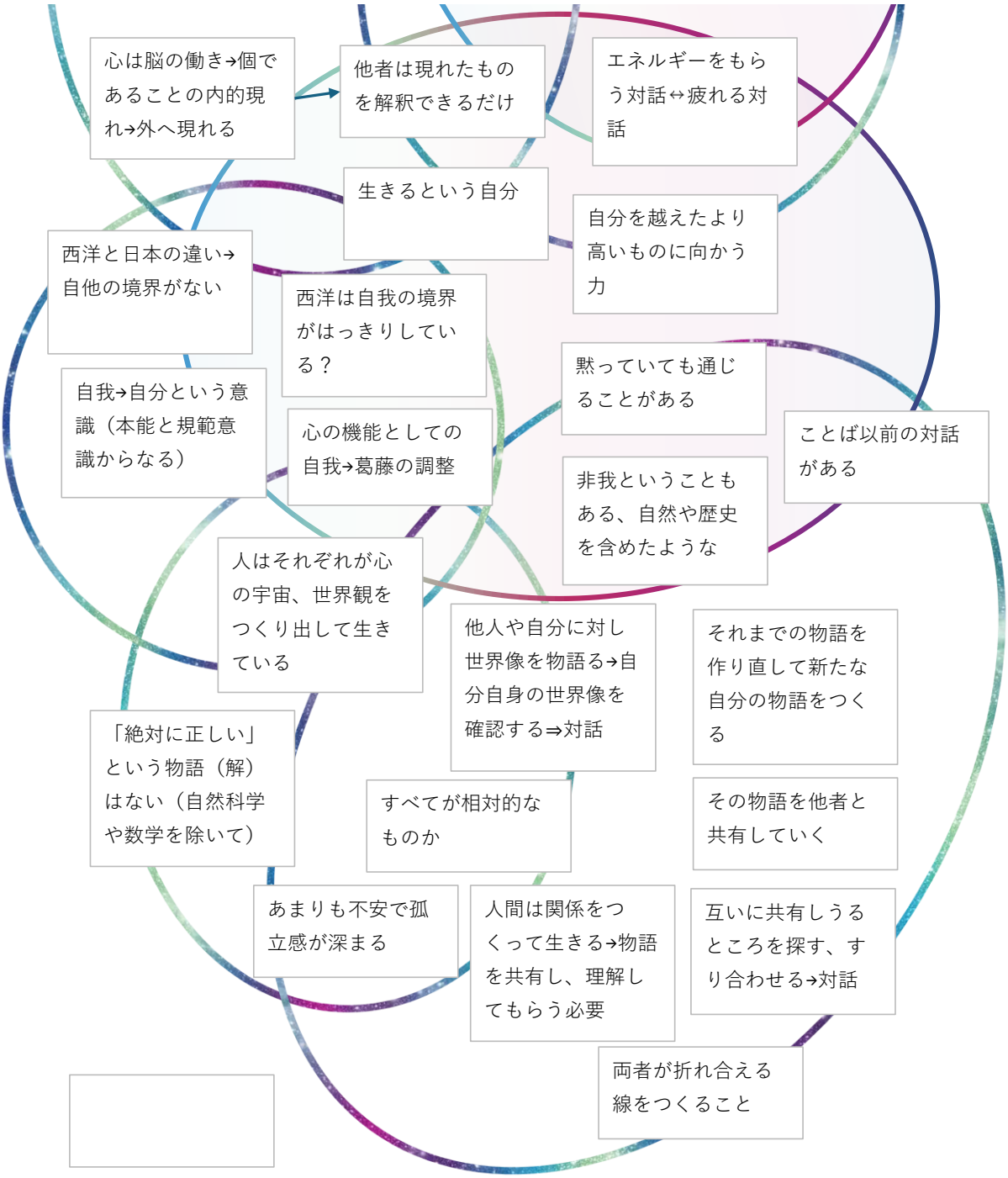
気づき、相手の立場の尊重

対話することはことばだけではない

ことば、絵、音楽、詩、文章（小説等）、舞踏などの表現→対話の形式

自分が変わっていく、心が喜ぶような対話

言葉以前の、思い、感情→心


心は脳の働き→個であることの内的現れ→外へ現れる
他者は現れたものを解釈できるだけ
エネルギーをもらう対話↔疲れる対話
生きるという自分
自分を越えたより高いものに向かう力
西洋と日本の違い→自他の境界がない
西洋は自我の境界がはっきりしている？
黙っていても通じることがある
自我→自分という意識（本能と規範意識からなる）
心の機能としての自我→葛藤の調整
ことば以前の対話がある
非我ということもある、自然や歴史を含めたような
人はそれぞれが心の宇宙、世界観をつくり出して生きている
他人や自分に対し世界像を物語る→自分自身の世界像を確認する⇒対話
それまでの物語を作り直して新たな自分の物語をつくる
「絶対に正しい」という物語（解）はない（自然科学や数学を除いて）
すべてが相対的なものか
その物語を他者と共有していく
あまりも不安で孤立感が深まる
人間は関係をつくって生きる→物語を共有し、理解してもらう必要
互いに共有しうるところを探す、すり合わせる→対話
両者が折れ合える線をつくること